

# ならしん景気動向調査レポート

(第25回) 2020年 7月期

奈良信用金庫 総合企画部 奈良県大和郡山市南郡山町529-6

TEL (0743-54-3116) URL <https://www.narashin.co.jp>

1. 調査期間..... 2020年7月
2. 調査時点..... 2020年7月 (前回調査 2020年5月)
3. 調査対象..... 当金庫取引事業先  
※対象先は任意に選定(毎年一部見直し)
4. 調査方法..... 往訪面談・電話等によるヒアリング調査
5. 回答状況

	対象先数	回答先数	回答率
製造業	39	39	100.0%
不動産業	17	17	100.0%
サービス業	14	14	100.0%
卸売・小売業	31	26	83.9%
建設業	14	12	85.7%
運輸業	9	9	100.0%
医療・福祉	11	8	72.7%
全業種合計	135	125	92.6%

当金庫でお取引をいただいている事業先から業種に偏りのないよう135社を任意に選定させていただき、最近の業況・資金繰り等、景気動向に関連するアンケート項目の聞き取りについて、ご協力をお願いいたしました。  
うち、125社よりご回答を賜りました。

# 今回調査結果一覧

2020年9月

全業種

				DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI
	対象先数	回答先数	回答率	業況	売上金額	収益	資金繰り	前年同期比売上	前年同期比収益	残業時間	人材
製造業	39	39	100.0%	-42.1%	-39.5%	-42.1%	2.6%	-39.5%	-44.7%	26.3%	-7.9%
不動産業	17	17	100.0%	-43.8%	-43.8%	-37.5%	18.8%	-50.0%	-68.8%	12.5%	0.0%
サービス業	14	14	100.0%	-64.3%	-71.4%	-71.4%	7.1%	-71.4%	-64.3%	50.0%	0.0%
卸売・小売業	31	26	83.9%	-48.4%	-58.1%	-51.6%	6.5%	-54.8%	-51.6%	16.1%	3.2%
建設業	14	12	85.7%	21.4%	28.6%	21.4%	35.7%	28.6%	28.6%	7.1%	0.0%
運輸業	9	9	100.0%	-50.0%	-50.0%	-37.5%	50.0%	-37.5%	-37.5%	25.0%	25.0%
医療・福祉	11	8	72.7%	-70.0%	-70.0%	-50.0%	-20.0%	-60.0%	-60.0%	0.0%	0.0%
全業種合計	135	125	92.6%	-42.0%	-43.5%	-40.5%	10.7%	-42.0%	-44.3%	20.6%	0.0%

	借入実施		設備投資実施			
	あり	なし	あり	なし		
製造業	33	5	16	22		
不動産業	10	5	2	12		
サービス業	13	1	4	10		
卸売・小売業	21	8	6	23		
建設業	11	1	1	11		
運輸業	7	2	2	6		
医療・福祉	6	3	0	8		
全業種合計	101	25	31	92		

「DI」について

「diffusion index (ディフュージョン・インデックス)」の略で、景気・業況などの動きを示すものです。  
このレポートでは、お客さまからいただいたご回答のうち「良い」「やや良い」の割合から、「やや悪い」「悪い」の割合を引いたものを記載しています。

(例) 業況について ご回答 (5社)

A社	<u>(1) 良い</u>	(2) やや良い	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い
B社	(1) 良い	<u>(2) やや良い</u>	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い
C社	(1) 良い	(2) やや良い	<u>(3) 普通</u>	(4) やや悪い	(5) 悪い
D社	(1) 良い	(2) やや良い	(3) 普通	<u>(4) やや悪い</u>	(5) 悪い
E社	<u>(1) 良い</u>	(2) やや良い	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い

$$DI = \left[ \frac{[(\text{良い} \times 2 + \text{やや良い} \times 1) \div 5社]}{[60.0\%]} \right] - \left[ \frac{[(\text{やや悪い} \times 1 + \text{悪い} \times 0) \div 5社]}{[20.0\%]} \right] = 40.0\%$$

**全体  
調査結果**

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-50.4%	-42.0%	8.4%	-48.1%	-43.5%	4.6%	-45.0%	-40.5%	4.5%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-13.7%	10.7%	24.4%	-48.9%	-42.0%	6.9%	-49.6%	-44.3%	5.3%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
18.3%	20.6%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
71.8%	80.2%	8.4%	14.8%	25.2%	10.4%			

**■概況 ※( )内はDI値**

全業種合計の業況判断DIは前回調査時より8.4ポイント上昇したものの、悪化傾向(-42.0%)という結果になった。変化幅を上方へと向かわせたのは不動産業、医療・福祉業を除く業種という結果になった。

売上についても、前回調査時より4.6ポイントの上昇となり、悪化傾向(-43.5%)という結果になった。変化幅を上方へと向かわせたのは医療・福祉業種を除く全業種という結果になった。

収益面についても医療・福祉業種を除く全業種全業種で変化幅を上方に向かわせたものの、全業種合計では悪化傾向(-40.5%)となった。前回同様建設業については良化傾向を維持した。

経営上の問題点として、「売上停滞・減少」を挙げる企業が増加し、常態化している「人手不足」「同業者競争の激化」を大きく上回った。

それらの解決策として「販路拡大」「経費削減」「人材確保」「資金繰り安定」を当面の重点経営施策として挙げる企業が多く見受けられた。

特別調査では、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を各企業に回答いただいたが、最も影響が出た項目は、「原材料・商品調達の滞り」であり、回答企業の69.7%の企業に影響が出た。

次いで、「売上・受注減少(26.3%)」が多く、「感染防止対策によるコスト増加(3.1%)」、「営業活動・販売活動の制限(0.7%)」と僅かながら見受けられた。

借入によって資金調達を行ったのは回答者全体の80.2%となり、前回は8.4ポイントの上昇となった。資金調達を行った結果、概ね3~6ヶ月の資金繰りの目途がついている企業が124社となった。

全業種合計の前年同期比売上は前回調査時から6.9ポイント上昇したものの、悪化傾向(-42.0%)となった。前年同期比の収益についても同様に5.3ポイント上昇したが、こちらも悪化傾向(-44.3%)となった。

なお、設備投資を行ったのは全体の25.2%であり、前回調査時より10.4ポイントの上昇となった。

7-9月の業績・売上額・収益の見通しについては、前回調査時より全ての項目で「良い」「やや良い」と答えた企業は僅かであるが増加し、普通であると答えた企業は増加した。「やや悪い」「悪い」と答えた企業数は減少した。

■特別調査	コロナ禍における各社の取組みおよび、今後3ヶ月の業績見込みについて
コロナ禍における状況	概ね3ヶ月程度の資金繰りは目途がついている 34社 概ね6ヶ月程度の資金繰りは目途がついている 90社 早急な資金繰り支援を要する 4社
コロナ禍における課題	「商流の見直し」28社、「新商品・新規ビジネスの企画」42社、「ITの拡充」24社、 「不採算部門からの撤退」16社、「その他」5社
業績(7-9月見込み)	「良い」1社、「やや良い」14社、「普通」57社、「やや悪い」45社、「悪い」12社
売上額(7-9月見込み)	「良い」2社、「やや良い」14社、「普通」55社、「やや悪い」44社、「悪い」14社
収益(7-9月見込み)	「良い」2社、「やや良い」10社、「普通」59社、「やや悪い」47社、「悪い」11社

業種別の概況・経営上の問題点・当面の対策・その他特別に調査した項目については、次ページ以降に内容を記載しております。

業種別  
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-47.4%	-42.1%	5.3%	-47.4%	-39.5%	7.9%	-50.0%	-42.1%	7.9%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-23.7%	2.6%	26.3%	-42.1%	-39.5%	2.6%	-50.0%	-44.7%	5.3%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
21.1%	26.3%	5.2%	-5.3%	-7.9%	-2.6%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
70.3%	86.8%	16.5%	18.9%	42.1%	23.2%			

## ■概況 ※( )内はDI値

製造業全体の業況判断DIは前回調査時と比べて5.3ポイント上昇したものの悪化傾向となった。

売上金額についても7.9ポイント上昇が見られたが、悪化傾向(-39.5%)となった。

原材料価格は前回調査時と比較して5.3ポイント上昇した。

収益については、前回比で7.9ポイント上昇したが、悪化傾向(-42.1%)を示した。

上記により資金繰りについては26.3ポイント上昇し、良化傾向(2.6%)を示した。

それに伴い、借入実施企業も86.8%となり、前回比で16.5ポイント上昇となった。

前年同期比売上は前回より2.6ポイントの上昇となったが、悪化傾向(-39.5%)となった

また、同収益も前回調査時より5.3ポイントの上昇が見られたが、悪化傾向(-44.7%)となった。

残業時間は前回比5.2ポイント上昇し、良化傾向を維持した。

人材については2.6ポイント低下し悪化傾向(-7.9%)となった。

なお、設備投資を行った先は全体の42.1%で、前回より23.2ポイント上昇している。

## ■経営上の問題点

新型コロナウイルスの影響により「売上停滞」が25社で最も多く、次点で「人手不足」が8社、「同業者競争の激化」が7社と続いた。

## ■当面の重点経営施策

依然、対策としては「販路拡大」が最も多く、25社で重点施策とされている。次いで「経費削減」15社「商品性の拡大」が12社となっている。

■特別調査	コロナ禍における各社の取組みおよび、今後3ヶ月の業績見込みについて
コロナ禍における状況	概ね3ヶ月程度の資金繰りは目途がついている 9社 概ね6ヶ月程度の資金繰りは目途がついている 27社 早急な資金繰り支援を要する 2社
コロナ禍における課題	「商流の見直し」9社、「新商品・新規ビジネスの企画」17社、「ITの拡充」6社、 「不採算部門からの撤退」3社、「その他」3社
業績(7-9月見込み)	「良い」1社、「やや良い」2社、「普通」14社、「やや悪い」17社、「悪い」4社
売上額(7-9月見込み)	「良い」1社、「やや良い」2社、「普通」13社、「やや悪い」17社、「悪い」5社
収益(7-9月見込み)	「良い」1社、「やや良い」2社、「普通」13社、「やや悪い」18社、「悪い」4社

新型コロナウイルスの影響が大きく、業況・売上・収益等様々なDIは引き続き悪化傾向となりました。経済活動が徐々に戻りつつあるものの、第2波・第3波の懸念もあり、従来の経済活動に戻るまで時間を要すると思料されますが、借入実施企業が多く資金繰りについては6ヶ月程度目途がついている企業が多く見られました。

製造商品によっては国内需要が増加していることから、今後の業績見通しが「良い」「やや良い」以上の回答を行った企業も一定数存在する結果となりました。

業種別  
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-37.5%	-43.8%	-6.3%	-43.8%	-43.8%	0.1%	-37.5%	-37.5%	0.0%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-18.8%	18.8%	37.6%	-50.0%	-50.0%	0.0%	-43.8%	-68.8%	-25.0%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
69.2%	66.7%	-2.5%	0.0%	14.3%	14.3%			

## ■概況 ※( )内はDI値

不動産業全体の業況判断DIは前回調査時より6.3ポイント低下し、悪化傾向(-43.8%)に転じた。

売上については変動0.1ポイントしかなく、悪化傾向(-43.8%)となった。

収益についても同様に変動無く、悪化傾向(-37.5%)を示した。

仕入れ価格は悪化傾向ながら、前回調査時より6.3ポイントの改善となった。

資金繰りについて37.6ポイント上昇し、良化傾向(18.8%)に転じている。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の66.7%であり、前回より2.5ポイント低下している。

前年同月比売上は、前回調査時と変化なく悪化傾向(-50.0%)となった。

同収益については、25.0ポイント低下し悪化傾向(-68.8%)となった。

残業時間については前回調査時から変動無く、良化傾向(12.5%)を維持した。

人材についても変動無く、中立で留まった。

設備投資実施企業は前回0社であったが14.3ポイント上昇となった。

## ■経営上の問題点

経営課題としては、新型コロナウイルスの影響を受け「売上停滞・減少」が9社でトップとなり、次点で「同業者競争の激化」が5社と続いた。

## ■当面の重点経営施策

当面の対策は「販路拡大」が11社で最も多かった。次点で「情報力の強化」が6社と続いた。

■特別調査	コロナ禍における各社の取組みおよび、今後3ヶ月の業績見込みについて
コロナ禍における状況	概ね3ヶ月程度の資金繰りは目途がついている 8社 概ね6ヶ月程度の資金繰りは目途がついている 8社 早急な資金繰り支援を要する 0社
コロナ禍における課題	「商流の見直し」5社、「新商品・新規ビジネスの企画」3社、「ITの拡充」3社、 「不採算部門からの撤退」1社、「その他」0社
業績(7-9月見込み)	「良い」0社、「やや良い」1社、「普通」12社、「やや悪い」3社、「悪い」1社
売上額(7-9月見込み)	「良い」0社、「やや良い」1社、「普通」12社、「やや悪い」3社、「悪い」1社
収益(7-9月見込み)	「良い」0社、「やや良い」1社、「普通」12社、「やや悪い」3社、「悪い」1社

新型コロナウイルスの影響が大きく、業況・売上・収益等様々なDIは引き続き悪化傾向となりました。経済活動が徐々に戻りつつあるものの、第2波・第3波の懸念もあり、従来の経済活動に戻るまで時間を要すると思料されることから、借入実施企業が多く資金繰りについては3~6ヶ月程度目途がついているという回答となりました。

2020年9月

サービス業

対象先 14

回答先 14

回答率 100.0%

業種別  
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-92.9%	-64.3%	28.6%	-85.7%	-71.4%	14.3%	-78.6%	-71.4%	7.2%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-28.6%	7.1%	35.7%	-100.0%	-71.4%	28.6%	-92.9%	-64.3%	28.6%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
50.0%	50.0%	0.0%	28.6%	0.0%	-28.6%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
85.7%	92.9%	7.2%	28.6%	28.6%	0.0%			

### ■概況 ※( )内はDI値

医療・福祉を除くサービス業の業況判断DIは前回調査時から28.6ポイント上昇したものの、前回調査同様に悪化傾向(-64.3%)を示した。

売上金額についても、14.3ポイント上昇したが、悪化傾向(-71.4%)となった。

収益についても同様に7.2ポイント上昇し、悪化傾向(-71.4%)となった。

一方で材料価格については、前回比14.3ポイント低下し悪化傾向(-7.1%)に転じた。

前年同期比売上は前回調査時から28.6ポイントと上昇したが、悪化傾向(-71.4%)を示した。

同収益についても、28.6ポイント上昇が見られたが、悪化傾向(-64.3%)を示した。

人材については、28.6ポイント低下し、中立を示し、残業時間については変動無く良化傾向(50.0%)を維持した。

資金繰りは良化傾向に転じ、借入によって資金調達を行った先は前回調査時より増加、全体の92.9%であった。設備投資を行った先は全体の28.6%であり、変動は無かった。

### ■経営上の問題点

新型コロナウイルスの影響により「売上停滞・減少」が10社で最も多く、「人手不足」「同業者競争の激化」が5社と続いた。

### ■当面の重点経営施策

売上停滞・減少により当面の重点経営施策は「経費節減」と考えている企業が7社と最も多く、次点で「情報力の強化」が6社、「人材確保」が5社と続いた。

■特別調査	コロナ禍における各社の取組みおよび、今後3ヶ月の業績見込みについて
コロナ禍における状況	概ね3ヶ月程度の資金繰りは目途がついている 2社 概ね6ヶ月程度の資金繰りは目途がついている 12社 早急な資金繰り支援を要する 1社
コロナ禍における課題	「商流の見直し」1社、「新商品・新規ビジネスの企画」8社、「ITの拡充」2社、 「不採算部門からの撤退」4社、「その他」0社
業績(7-9月見込み)	「良い」0社、「やや良い」1社、「普通」12社、「やや悪い」3社、「悪い」1社
売上額(7-9月見込み)	「良い」0社、「やや良い」1社、「普通」12社、「やや悪い」3社、「悪い」1社
収益(7-9月見込み)	「良い」0社、「やや良い」1社、「普通」12社、「やや悪い」3社、「悪い」1社

新型コロナウイルスの影響が大きく、業況・売上・収益等様々なDIは引き続き悪化傾向となりました。経済活動が徐々に戻りつつあるものの、第2波・第3波の懸念もあり、従来の経済活動に戻るまで時間を要すると思料されることから、借入実施企業が多く資金繰りについては6ヶ月程度目途がついている企業が多く見られました。また、社内体制の見直し機会と捉え新商品・新規ビジネスの企画や不採算部門からの撤退を検討している企業が見られました。

業種別  
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-58.1%	-48.4%	9.7%	-58.1%	-58.1%	0.0%	-51.6%	-51.6%	0.0%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-12.9%	6.5%	19.4%	-54.8%	-54.8%	0.0%	-58.1%	-51.6%	6.5%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
19.4%	16.1%	-3.3%	3.2%	3.2%	0.0%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
72.4%	72.4%	0.0%	10.7%	20.7%	10.0%			

## ■概況 ※( )内はDI値

卸売・小売業全体の業況判断DIは前回調査時から9.7ポイント上昇し、悪化傾向(-48.4%)と縮小した。売上に関しては変化無く、悪化傾向(-58.1%)にであり、収益についても、悪化傾向(-51.6%)を継続する結果となった。

仕入れ価格については、悪化傾向(-16.1%)を示し、前回調査時より9.7ポイントの低下となった。在庫については悪化傾向(-3.2%)となったが、前回比で6.5ポイントの上昇となった。

前年同期比売上については、前回から変動無く、悪化傾向(-54.8%)となっている。

また、同収益については6.5ポイント上昇し、悪化傾向(-51.6%)に縮小した。

人材については前回から変動無く、良化傾向を維持する結果となった。

残業時間は前回調査時より3.3ポイント低下したものの、引き続き良化傾向(16.1%)を維持した。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の72.4%と、前回から変動無く、設備投資割合については、20.7%と、10ポイントの上昇となった。

## ■経営上の問題点

「売上停滞・減少」が17社で最も多く、前回同様一番多い回答となった。次点で「在庫調整」が6社、「利益幅の縮小」5社と続いた。

## ■当面の重点経営施策

「販路拡大」が15社でトップ。次点は「経費節減」が12社、「料金調製」「資金繰り安定」が6社と続いた。

■特別調査	コロナ禍における各社の取組みおよび、今後3ヶ月の業績見込みについて
コロナ禍における状況	概ね3ヶ月程度の資金繰りは目途がついている 12社 概ね6ヶ月程度の資金繰りは目途がついている 16社 早急な資金繰り支援を要する 1社
コロナ禍における課題	「商流の見直し」9社、「新商品・新規ビジネスの企画」7社、「ITの拡充」2社、 「不採算部門からの撤退」4社、「その他」0社
業績(7-9月見込み)	「良い」0社、「やや良い」4社、「普通」10社、「やや悪い」15社、「悪い」1社
売上額(7-9月見込み)	「良い」0社、「やや良い」5社、「普通」8社、「やや悪い」16社、「悪い」1社
収益(7-9月見込み)	「良い」0社、「やや良い」2社、「普通」11社、「やや悪い」16社、「悪い」1社

新型コロナウイルスの影響が最も大きく、業況・売上・収益等様々なDIは引き続き悪化傾向となりました。経済活動が徐々に戻りつつあるものの、第2波・第3波の懸念もあり、従来の経済活動に戻るまで時間を要すると思料されることから、借入実施企業が多く資金繰りについては6ヶ月程度目途がついている企業が多く見られました。販路拡大と経費削減の観点からまた、商流の見直しを課題としている企業が多く見られました。

業種別  
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-21.4%	21.4%	42.8%	-7.1%	28.6%	35.7%	7.1%	21.4%	14.3%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
14.3%	35.7%	21.4%	7.1%	28.6%	21.5%	14.3%	28.6%	14.3%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
-7.1%	7.1%	14.2%	-14.3%	0.0%	14.3%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
78.6%	91.7%	13.1%	7.1%	8.3%	1.2%			

## ■概況 ※( )内はDI値

建設業全体の業況判断DIは前回調査時から42.8ポイント上昇し、良化傾向(21.4%)に転じた。

売上金額についても同様に35.7ポイント改善し、良化傾向(28.6%)に転じた。

一方、受注残高、施工高は前回調査時よりDIも上昇し、良化傾向を維持した。

収益についても、前回調査時より14.3ポイント上昇し、良化傾向(21.4%)となった。

資金繰りについては、前回調査時より21.4ポイント上昇し、良化傾向(35.7%)となった。

前年同期比売上も前回から21.5ポイント上昇し、良化傾向(28.6%)となった。

同収益についても、前回調査時から14.3ポイント上昇し良化傾向(28.6%)となった。

残業時間については前回から14.2ポイント上昇し、良化傾向(7.1%)に転じた。

人材についても前回調査時から14.3ポイント上昇し中立となった。

借入により資金調達を行った先は91.7%であり、引き続き高い借入実施率を示した。

設備投資を行った先は、前回から1.2ポイント上昇し8.3%であった。

## ■経営上の問題点

「同業者競争の激化」が5社と最も多く、次いで「売上停滞・減少」が4社と続いた。

同業者競争の激化などが経営に大きな影響を与えていると考えられる。

## ■当面の重点経営施策

「販路拡大」が7社で最も多く、次点で、「人材確保」「技術力・営業力強化」が4社と続いた。

同業者競争の激化を受け、企業として勝ち残るため、技術力・営業力強化や販路拡大に注力する姿勢が伺える結果となった。

■特別調査	コロナ禍における各社の取組みおよび、今後3ヶ月の業績見込みについて
コロナ禍における状況	概ね3ヶ月程度の資金繰りは目途がついている 0社 概ね6ヶ月程度の資金繰りは目途がついている 12社 早急な資金繰り支援を要する 0社
コロナ禍における課題	「商流の見直し」2社、「新商品・新規ビジネスの企画」2社、「ITの拡充」6社、 「不採算部門からの撤退」1社、「その他」0社
業績(7-9月見込み)	「良い」0社、「やや良い」3社、「普通」8社、「やや悪い」1社、「悪い」0社
売上額(7-9月見込み)	「良い」1社、「やや良い」2社、「普通」9社、「やや悪い」0社、「悪い」0社
収益(7-9月見込み)	「良い」1社、「やや良い」2社、「普通」9社、「やや悪い」0社、「悪い」0社
<p>新型コロナウイルスの影響を受けていましたが、業況・売上・収益等様々なDIが回復し、良化傾向を示しました。他業種と比べても回復ペースが早い結果が出ております。借入実施についても積極的に行っており、資金繰りについても6ヶ月程度目途がついているという結果になりました。</p> <p>同業者競争の激化から、当面の重点経営施策は、引き続き「販路拡大」や「人材確保」、他社との差別化を図るために、「技術力・営業力強化」に取り組む姿勢が伺えます。</p>	

2020年9月

運輸業

対象先

9

回答先

9

回答率

100.0%

業種別  
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-62.5%	-50.0%	12.5%	-62.5%	-50.0%	12.5%	-62.5%	-37.5%	25.0%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
12.5%	50.0%	37.5%	-62.5%	-37.5%	25.0%	-62.5%	-37.5%	25.0%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
87.5%	77.8%	-9.7%	25.0%	25.0%	0.0%			

### ■概況 ※( )内はDI値

運輸業全体の業況判断DIは前回調査時より12.5ポイント上昇したものの、悪化傾向(-50.0%)となった。売上金額も前回から12.5ポイント上昇したが、悪化傾向(-50.0%)を継続することとなった。収益についても同様に、25.0ポイント上昇したものの、悪化傾向(-37.5%)となった。

資金繰りについては前回調査時より37.5ポイント上昇し、良化傾向(50.0%)と拡大した。

借入によって資金調達を行った先は全体の77.8%であり、前回より9.7ポイントの減少となった。なお、設備投資を行った先は25.0%で、前回から変動は無かった。

前年同期比売上は前回より25ポイント上昇しているが、悪化傾向(-37.5%)となった。同収益についても、25.0ポイント上昇となったが悪化傾向(-37.5%)となった。

人材については前回より25.0ポイント上昇し良化傾向(25.0%)を示した。残業時間については、前回調査時から変動無く、良化傾向(25.0%)を維持した。

### ■経営上の問題点

「売上停滞・減少」が6社で最も多く、次点で「利幅の縮小」が2社と続いた。売上停滞・減少に加えて、同業者競争の激化による利益幅の縮小などが経営に大きな影響を与えていると考えられる。

### ■当面の重点経営施策

「販路拡大」が4社で最も多く、次点で「人材確保」、「情報力の強化」が3社と続いた。

■特別調査	コロナ禍における各社の取組みおよび、今後3ヶ月の業績見込みについて
コロナ禍における状況	概ね3ヶ月程度の資金繰りは目途がついている 1社 概ね6ヶ月程度の資金繰りは目途がついている 8社 早急な資金繰り支援を要する 0社
コロナ禍における課題	「商流の見直し」2社、「新商品・新規ビジネスの企画」2社、「ITの拡充」1社、 「不採算部門からの撤退」2社、「その他」1社
業績(7-9月見込み)	「良い」0社、「やや良い」1社、「普通」4社、「やや悪い」3社、「悪い」1社
売上額(7-9月見込み)	「良い」0社、「やや良い」1社、「普通」4社、「やや悪い」3社、「悪い」1社
収益(7-9月見込み)	「良い」0社、「やや良い」1社、「普通」4社、「やや悪い」3社、「悪い」1社

新型コロナウイルスの影響を受けて、業況・売上・収益等様々なDIについて、悪い状況が続く結果となりました。

借入実施企業が多く資金繰りについては6ヶ月程度目途がついている企業が多く見られました。緊急事態宣言が解除され、経済活動が徐々に戻りつつあるものの、第2波・第3波の懸念もあり、従来の経済活動に戻るまで時間を要すると思料されることから、当面の重点経営施策を「販路拡大」とし、経営基盤の強化に注力する企業が多く見られました。

業種別  
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-30.0%	-70.0%	-40.0%	-20.0%	-70.0%	-50.0%	-30.0%	-50.0%	-20.0%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-10.0%	-20.0%	-10.0%	-50.0%	-60.0%	-10.0%	-50.0%	-60.0%	-10.0%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
0.0%	0.0%	0.0%	-10.0%	0.0%	10.0%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
33.3%	66.7%	33.4%	11.1%	0.0%	-11.1%			

## ■概況 ※( )内はDI値

医療・福祉分野の業況判断DIは前回調査時より40.0ポイント低下し、悪化傾向(-70.0%)に拡大した。売上金額についても50.0ポイント低下し、悪化傾向(-70.0%)に拡大した。

また、ベット稼働率については60.0ポイント低下し、悪化傾向(-50.0%)維持した。

通院者数についても新型コロナウイルスの影響が大きく前回から50.0ポイント低下し、悪化傾向(-80.0%)に拡大した。

収益についても同様に前回調査より20.0ポイント低下し、悪化傾向(-50.0%)となった。

資金繰りについても、10.0ポイントの低下がみられ、悪化傾向(-20.0%)を示す結果となった。

借入によって資金調達を行った先は全体の66.7%であり、前回から33.4ポイントの増加となった。

前年同期比売上は前回調査時から10.0ポイント低下し、悪化傾向(-60.0%)を示した。

同収益についても同様に、10.0ポイント低下し、悪化傾向(-50.0%)を示している。

残業時間は前回から変動無く、中立であり、人材については前回から10.0ポイント上昇し中立を示した。

なお、設備投資を行った先は無かった。

## ■経営上の問題点

「売上停滞・減少」が最も多く5社であった。次点で「利益幅の縮小」「人手不足」と続いた。

## ■当面の重点経営施策

「経費削減」「資金繰り安定」が4社で最も多かった。次点で「人材確保」が2社と続いた。

優秀な人材の確保に注力することに加えて、経費削減を図り、運営を安定化させる施策が重要となっている。

■特別調査	コロナ禍における各社の取組みおよび、今後3ヶ月の業績見込みについて
コロナ禍における状況	概ね3ヶ月程度の資金繰りは目途がついている 2社 概ね6ヶ月程度の資金繰りは目途がついている 7社 早急な資金繰り支援を要する 0社
コロナ禍における課題	「商流の見直し」0社、「新商品・新規ビジネスの企画」3社、「ITの拡充」4社、 「不採算部門からの撤退」1社、「その他」1社
業績(7-9月見込み)	「良い」0社、「やや良い」0社、「普通」6社、「やや悪い」2社、「悪い」1社
売上額(7-9月見込み)	「良い」0社、「やや良い」0社、「普通」6社、「やや悪い」2社、「悪い」1社
収益(7-9月見込み)	「良い」0社、「やや良い」0社、「普通」6社、「やや悪い」2社、「悪い」1社

新型コロナウイルスの影響を受けて、不要不急の来院者が減少し、通院者数DIが大幅に低下いたしました。それに伴い業況・売上・収益等のDIも低下いたしました。

他の業種では、客足・売上回復が見られた分野もありましたが、医療業界は厳しい状況が続いています。

緊急事態宣言解除後も、外出を控える動きが続き、人の動きは未だ限定的だったと思慮されます。

資金繰り安定を図る為に借入実施企業が多く、資金繰りについては6ヶ月程度目途がついている企業が多く見られました。また経費を削減することで収益を確保し、運営の安定化を図ることが重要だと考えている企業が多く見られました。